

Hachioji MAIL NEWS



輸送サービス労組八王子地本



ホームページ

2024.04.09

No.129



Twitter

地本ホームページに投稿がありました

最近どの駅もみどりの窓口がとても混雑していて社員も苦勞しており、お待ちのお客さまに多大な迷惑をかけていると思います。



自宅近くの●●駅の混雑がひどいです。

話せる指定席券売機のオペレーターも1人のお客さまを対応するために10分から20分しないと繋がらない状態で、お待ちのお客さまにも座れる椅子もなく不満が溜まっていると思います。

現在通学定期券や連休の切符の発売が多く会社はえきねっと、モバイルSuica定期券の利用を促進していますが、全く効果は無さそうです。

そんな状況なのに会社が全く対策をせずあぐらをかいているのが許せません。

団体交渉で再三再四うったえている現場社員の事に耳を貸そうともしない会社姿勢によって、定期の多売期や繁忙期等に長時間に渡りお求めのお客さまをお待たせする事態が多々発生！

JR東日本会社はICT活用による利便性向上や指定席券売機利用が増えている事を理由に、みどりの窓口廃止と「話せる指定席券売機」の導入施策を強力に推し進めています。2021年4月時点で管内440駅にあったみどりの窓口は2025年までに約140駅に減らし、中長期的に年間約25億円の人件費削減を見込んでいると報じられています。

輸送サービス労組八王子地本は、駅で働く社員の働きがい・モチベーション等の低下や、駅をご利用されるお客さまの利便性低下発生を防止すべく、会社との団体交渉を通じて「みどりの窓口閉鎖」を進める会社施策の見直しを求め、地域の顔である駅のあり方を議論しています。

会社はお客さまからの声について『みどりの窓口閉鎖は残念という声はあるが、大きな声ではない』と交渉内で回答しており、利便性を犠牲にして効率的な事業運営を重視する経営体質なのは明白です。

生産性向上によるコストカットにより、社員だけでなくお客さまや地域からの信頼低下がより一層進んでいるのではないかと！